

九州 兼喜

2009.1
No. 104

初春

謹んで
御祝言を
申上ります



2009

年頭のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。

清水建設九州支店の社員の皆様、九州兼喜会の皆様もつつがなく新春をお迎えの事と、お慶び申し上げます。

サブプライムローン リーマンショック等々米国発の世界経済危機の中、日本も例外なく不況の大波が押し寄せております。特に自動車、IC等の打撃は大きく、その影響はもろに建設業にも来ております。

厳しい建設業の中、他のゼネコンと違った清水建設と兼喜会の信頼関係の厚さを武器にこの業界の荒波を共に乗り越えようではありませんか。昨年非常に残念でしたが、死亡災害が発生しました。兼喜会、災防協共々反省し、再発防止をきちっと決め、“災害0”の決意を持ち続けなければなりません。

寺田支店長も社員の方々へのメッセージで兼喜会への思いも述べてあったそうです。

内容は「兼喜会の方々にはこの一年間大変お世話になり感謝しております。

今回の事故（死亡災害）は大変残念な結果です。全国安全衛生推進大会で杉山会長に表彰状を渡せない事は申し訳なく思っております。今回の災害は我々に対する新たな警鐘と受け取ってより高い安全文化を目指していきたい。

厳しい経済環境の中ですが、兼喜会と“共生”で頑張ろうと思っております。本当の意味で体力を付け、一つ一つ実行していく事で勝ち抜いて

九州兼喜会
会長

杉山秀彦



いきたい」との内容でした。

本来、災害の安衛法上の責任は事業主です。業者です。

業者の代表である私が、土下座してでもお詫びしなくてはならないのに、我々に対し「申し訳ない」との言葉は九州支店の「安全文化」の証だと思えます。

どんな不具合に対しても相手が悪いとの事で解決を計るより、自分に非があるとの事で解決を計った方がより不具合の再発防止に繋がると思えます。それ以上に人間関係、信頼関係も築き上げられると考えます。

あつてはならぬ事故ではありましたが、清水建設の兼喜会への信頼の大きさ、今後の期待を改めて感じております。

今年はここに災害のない品質の高い作品をお客様へ届ける事を誓おうではありませんか。

清水建設九州支店、九州兼喜会の皆様にとって今年も良い年であります様、祈念しまして新年のご挨拶とさせていただきます。





新年明けましておめでとうございます。

九州兼喜会の皆様におかれましては、気持ちも新たにこの新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。日頃は皆様方に一方ならぬご支援・ご協力を頂き、深く感謝申し上げますとともに、今年も変わらずお付き合い頂きますようお願い申し上げます。

昨年の上半期は、一昨年同様、自動車や半導体をはじめとする製造業を中心に好調な設備投資が続き、景気は明るい見通しでありましたが、建設業においては原油の高騰に始まった原料資材の物価上昇に見舞われました。現在でも、一部物価下落したのものがあるものの、多くのものが高止まりを続けています。また、サブプライムローン問題に端を発した金融危機に突如見舞われ、景気の状態はバブル崩壊期を凌ぐほど悪化しています。マネーゲームに始まった虚業の上の経済がいかに脆弱なものかを感じ知ったわけですが、着実に業績を積み上げている企業にまで影響が及ぶとなると、グローバル経済とはいったい何なのかと疑問に感じざるを得ません。しかし、このような中にあっても生き残りを賭けていかなければならず、今年も大変な一年になると覚悟しなければいけないと思っています。むしろ、このような時こそ企業集団の総合力が試される時であり、兼喜会の皆様と今まで築き上げてきた伝統の力があれば、必ずや乗り切ることができると確信しています。

安全については、昨年は死亡事故が発生して九州支店にとっては大変残念な結果になりました。全社で死亡事故が多発し、大いに反省しなければなりません。油断をすると、いつでも事故は襲ってきます。緊張感が緩み連鎖的に事故が起きてしまうことを一番懸念していましたが、年末に皆さんの必死の努力でそれ以上の災害を食い止めることができたのは九州の安全文化の高さを物語るものです。安全は数字を求めるものではありませんが、全国で九州支店の安全レベルが一番高いと評価されるこ

清水建設(株) 九州支店
執行役員支店長

寺田 修



とは、やはりうれしいことです。また新たな安全年度が始まるわけですが、「基本を大事にして繰り返し実行する」「決まったことはしっかり守る」「物事を一つずつ着実にやっていく」という信条を基に、当社と兼喜会が一体となった取り組みを更に推進して、今年には災害のない年にしたいと願っています。

昨年の世相を表す言葉として「変」という字が選ばれました。アメリカでは「変革」を訴えたオバマ次期大統領がこの1月に就任します。世界経済が正常化して日本の経営環境も新たな成長に向けて変わって欲しいという願いが込められているのかも知れません。以前、「変わらないもの」と「変わるもの」という話をしました。「変わらないもの」とは個人でいえば人間性といった根源的なものであり、当社では、社長が仰っている“ものづくり”そのものではないかと思っています。一方、「変わるもの」とは社会の変化に対応して企業文化・体質を変革しなくてはならないものです。変革といっても今まで蓄積してきたものが基準であって、そういう意味では、変化とは“継続することを意識する”と言い換えてもよいのかも知れません。一年も経たないうちに首相が次々と替わってしまうようでは、いったいこの国がどこに向かって進んでいくのか心配でたまりません。九州支店の進路は間違えないように、「変わらないもの」を強化しつつ、「変わるもの」の体質改善を図って進んでいきたいと思っています。

建設業においては、今年には正念場になると覚悟しています。厳しい競争の中で勝ち抜いていかなければなりません。皆さんと一致団結してベクトルを合わせて取り組んでいけば、必ずやこの困難な状況を克服できるものと確信しています。兼喜会の皆様と共に、清水建設グループの“誇り”を持って今年一年を充実した年にしたいと願っています。

最後になりますが、兼喜会会員各社の社業のご隆盛と、会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

第17回 清水建設全国連合兼喜会 後継者育成研修報告書

九州兼喜会 青年部 鶴崎元貴
(株)清進工業

平成20年11月20日(木)～21日(金)に東京チサンホテル浜松町におきまして、清水建設全国連合兼喜会第17回後継者育成研修が開催され、九州支部からも3名が参加しました。

初日は研修会があり、東京兼喜会青年部・前橋部長の司会のもと、兼喜会・石井映雄副会長の開会及び主旨説明がありました。その後、調達総合センター・加藤信夫所長から、「取引業者の人材確保に関する支援策」というテーマで、建築コストの動向、建築工事量の動向、そしてこれらを踏まえた上で、取引業者と連携を強化し、清水建設の歴史も兼喜会と一緒に変化させる事が大切!! 人づくりなくしてものづくりは出来ない、自分のした仕事に愛着をもち、子供達に誇れる仕事をしよう。という所から、モチベーション、技術の向上を目指し、人材育成施策の支援、富士研修センターやものづくり大学との連携の検討などの講話をいただきました。

次に、安全環境本部・郷田道雄本部長より「全産業と建設業の労働災害発生状況」というテーマで、さまざまな災害事例を挙げて、ダブルセーフティー、作業計画とルールの見える化、職長主体によるリスクアセスメントの例などを安全策として取り挙げ、元請けと真のパートナーシッ

プを築き、取引業者の災害撲滅を目指していこうという内容の講話をいただき、瞬く間に初日の研修会が終了しました。

研修会2日目は、江東区越中島にある清水建設技術研究所に行き、シミズ・オープン・アカデミーとして、2Fのプレゼンテーションルームにて、建設技術の歴史についてや、免震による既存建物の耐震改修の免震レトロフィット、又伝統を守り、活かすための歴史的建造物についての講義の後、研究所内の見学をさせていただきました。建設技術歴史展示室では、近代建設技術の導入期にあたる、明治・大正期から、その後の発展を中心とした物や写真が多数展示してありました。次の風洞実験棟では、世界で初めて水に浮く免震の「パーシャルフロート」を適用した建物内で、模型を使った風洞実験の内容を説明していただいた時には、改めて清水建設の最先端技術に大変おどろかされました。

最後に、普段現場で仕事をしていても、知る事の出来ない、建築の歴史や最先端技術、そしてこれから先建築がどのように変わっていくのか、などを勉強させていただき今回のような研修を企画していただき、このような機会を与えていただいた事を心より感謝し厚く御礼申し上げます。



九州兼喜会 青年部 池間 秀敏
沖縄支部長

平成20年10月17日（金曜日）に九州兼喜会青年部は、各支部より30名余りが参加し、秋の研修会を沖縄県で開催させて頂きました。

今回の現場研修は沖縄県中頭郡中城村の吉の浦火力発電所作業所を見学させて頂きました。

現場見学では、はじめに作業所長のご挨拶をいただきました。引き続き、工事担当者より工事概要、現在施工中の工事内容等の説明を聞きその後、現場の見学をさせて頂きました。

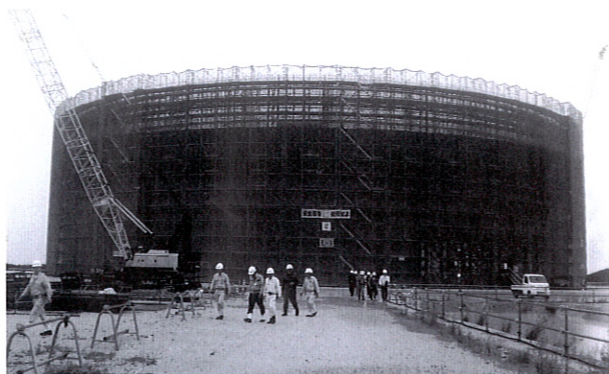
今回見学させて頂いたのは広大な敷地内に建設中の液化ガスの貯蔵タンクで、直径80m・高さ約40mの大きなタンク（No.1、No.2LNGタンク）2基です。

高さ約40mの壁を6層に分けて施工を行う計画で、今回の現場見学では5層目壁の施工中でした。

私たちが日頃お世話になっている建築現場とは違い広い現場内に作業員30名程の少人数で作業を行っておられたということもあるせいか、整然とし大変きれいな現場だと印象的でした。又、現場所長の安全方針で、『開口部ゼロ運動』を実施されており、足場のすき間を含めて全ての開口部を無くし、作業員がより安全に作業を行えるよう環境整備されていたことも特に参考になりました。

また今後、技術的に珍しい工法でタンクの上部（屋根）の施工を計画されているということで、青年部からは、是非見学したいです。との声が多くありました。とても有意義な研修会でした。

最後になりますが、今回の研修会に多大なご協力を頂きました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



兼喜会理事会、役員会議事録

○役員会

とき	平成20年9月26日(金)	出席者	杉山会長他18名
ところ	フェニックス・シーガイア・リゾート サミットホール2階 フェニックスルーム		支店より松浦副支店長様 安全環境部 野上部長様 調達部 岡田部長様

【議 題】

1. 平成20年度兼喜会、災害防止協議会中間報告の件
2. 青年部の件
3. その他

○理事会

とき	平成20年10月3日(金)
ところ	兼喜会事務所
出席者	杉山会長他5名

【議 題】

1. 9月役員会の件
2. 青年部
3. その他

○理事会

とき	平成20年11月4日(火)
ところ	兼喜会事務所
出席者	杉山会長他5名

【議 題】

1. 12月役員会の件
2. 青年部
3. その他

○役員会

とき	平成20年12月1日(月)
ところ	福岡山の上ホテル
出席者	杉山会長他18名 支店より松浦副支店長様 安全環境部 野上部長様 調達部 岡田部長様

【議 題】

1. 12月役員会の件
2. 各支部の意見

会員の動静

叙勲・国家褒章受賞

受賞おめでとうございます

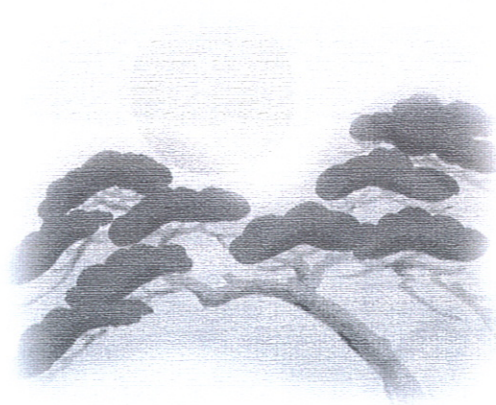
○瑞宝単光章

(有)福本組(左官) 平成20年11月3日
福本 市郎 殿(60歳)



会員名変更

○(有)宮崎川越建販(鋼製建具) 岩倉正彦
新会員名→宮川裕幸 20.10.16変更



発行所 福岡市中央区渡辺通3-6-11 福岡フコク生命ビル 印刷所 川本印刷株式会社
清水建設九州支店内 九州兼喜会 TEL 092-431-4091